

9. 循環器系の疾患

文献

内田智夫. 下肢深部静脈血栓症の腫脹に対する桂枝茯苓丸の治療効果. 静脈学2009; 20: 1-6. 医中誌 Web ID: 2009139345

1. 目的

下肢深部静脈血栓症への桂枝茯苓丸投与による腫脹の改善への評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

水戸赤十字病院外科 1 施設

4. 参加者

2003 年 1 月-2007 年 12 月に上記施設で、超音波検査で下肢深部静脈血栓症と診断された 12 名

5. 介入

Arm 1: ヘパリン (1 万単位/日)、ウロキナーゼ (24 万単位/日) の後にワーファリン内服+ ツムラ桂枝茯苓丸エキス顆粒 (2.5g)、1 日に 3 回、食前内服で半年。6 名。

Arm 2: ヘパリン (1 万単位/日)、ウロキナーゼ (24 万単位/日) の後にワーファリン内服。6 名。

両群間に年齢、性別、患肢の構成に差はなかった。

6. 主なアウトカム評価項目

桂枝茯苓丸開始時、半年後の健肢と患肢の下腿周径差の変化で評価

7. 主な結果

両群ともに周径差は有意に減少した ($P<0.05$) が、下腿周径差の改善率 (治療前の周径差 - 治療後の周径差) / 治療前の周径差 \times 100%) を比較すると、桂枝茯苓丸群では $66.1 \pm 20.5\%$ 、無薬群では $34.0 \pm 13.7\%$ で、桂枝茯苓丸群のほうが有意に改善率が高かった ($P=0.05$)。

8. 結論

ヘパリン、ウロキナーゼ投与後にワーファリンとの併用により、桂枝茯苓丸の投与は、下肢深部静脈血栓症の腫脹を軽減する有効な治療薬と考えられた。

9. 漢方的考察

桂枝茯苓丸はオ血の治療薬のひとつであることから、血液凝固性の変化、血液流動性の悪化と微小循環障害の病態により発生すると考えられている下肢深部静脈血栓症の治療薬になると考えられるとの記載あり。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

本研究は、駆オ血剤である桂枝茯苓丸の下肢深部静脈血栓症による腫脹の改善効果を評価したものである。症例の腫脹は静脈系の機能不全、リンパ管の循環障害、あるいは炎症等の要因が考えられ、桂枝茯苓丸の作用点はどこなのかは不明であるが、静脈の血栓により完成した下肢の腫脹病態にオ血が関与している可能性が示された。治療困難な下肢深部静脈血栓症への治療の扉がひとつ開かれ、実地臨床家には価値ある知見と思われる。今後、症例の蓄積、ほかの方向性からの研究的アプローチにより、桂枝茯苓丸の作用機序 (おそらくひとつではない) を明らかにしていただきたい。

12. Abstractor and date

後山尚久 2010.6.1, 2013.12.31